支那事變と協調會

戰時勞働對策懇談會の誕生

國民生活の全分野が戰時色に塗り替へられつゝある今日、產業勞働界に於ても戰時對策が講ぜらるべきは當然のことである。協調會に於ては軍官民の斯界最高權威者を網羅して、戰時及戰後の勞働對策の研究に着手した。

第一回會合は九月十一日午後五時より協調會會議室に於て開催され、町田常務理事司會の下に、軍需勞務需給の問題に就て、社會局近藤職業課長、陸軍省長谷川大佐、海軍省桑原大佐等を中心に討議が進められた。

當夜の話題は軍需注文の擴大に伴ふ勞働力の不足、及び勞務者の出征に伴ふ勞働力の不足を如何にして補給するかと云ふ問題に就て論議したのであるが、更にこの問題に關聯して農業と工業との關係、職工募集方法の改善、職業紹介所機構の整備、更に勞働力の質的改善等に就ての有益なる意見が交換された。

出席者氏名（順序不同）

近藤壤太郎氏(社會局)、成田一郎氏(社會局)、森部隆氏(社會局)、佐藤正義氏(日本製鐵)、沼越正己氏(社會局)、石山賢吉氏(ダイヤモンド社)、鈴木宗正氏(警視廳)、吉田茂氏(農村工業協會)、糸井謹治氏(東京府)、渡邊政德氏(義肢研究所)、桑原憲氏(海軍省)、長谷川基氏(陸軍省)、山田秀三氏(資源局)、吉阪俊藏氏(社會局參與)、暉峻義等氏(日本勞働科學研究所)、和田隆造氏代理(芝浦製作所)、鮎澤巖氏(國際勞働局)、深川正夫氏(三井鑛山)、山田榮一氏(富士瓦斯紡績)、町田辰次郎(協調會)、長岡保太郎(協調會)、蒲生俊文(協調會)

第二回戰時勞働對策懇談會

九月三十日午後五時から協調會々議室に於て第二回會合が開催され、戰時中に於ける勞働條件、就中應召者の待遇、勞働時間、賃銀及福利施設等に就て、沼越社會局監督課長から全般的對策、鈴木警視廳工場課長から東京府下に於ける勞働事情の概況、吉阪俊藏氏から歐洲大戰當時に於ける各國の勞働對策に就て夫々說明があり、民間側數氏よりかなりつき込んだ質問及希望意見があつて、九時散會まで極めて活潑な懇談が行はれた。

出席者氏名

山崎巖氏、深川正夫氏、栗原美能留氏代理、近藤壤太郎氏、山田榮一氏、鮎澤巖氏、沼越正己氏、佐藤正義氏、安積得也氏、中田謙二氏、鈴木宗正氏、渡邊政德氏、長谷川基氏、和田隆造氏、久保滿雄氏、渡邊斌衛氏、桑原憲氏、森田良雄氏代理、大野木克彥氏、平澤幹氏代理、吉阪俊藏氏、石橋湛山氏代理、協調會町田辰次郎、長岡保太郎、蒲生俊文

戰時勞働對策研究要目案（協調會中島仁之助氏提出）

一　戰時勞働統制に關する問題
　—戰時に於ける勞働力の補給調整—
　イ、出征による勞働力の不足と其の補塡策
　ロ、生產力擴充と所要勞働力の維持養成
　ハ、勞働力の總動員、代替勞働力の養成
　ニ、戰時產業統制に基く產業の轉換と之に伴ふ所要勞働力の配分、轉移並に開發
　ホ、戰時勞働市場政策の執行機關及び組織の擴充
　へ、戰時に於ける農村の勞働統制
　ト、戰後に於ける勞働力の復員

二　戰時產業平和に關する問題
　—戰時に於ける勞資關係の調整—
　イ、勞働組合對策
　ロ、勞働運動對策
　ハ、農村對策
　ニ、思想統制政策

三　銃後社會政策に關する問題
　—銃後社會政策の全國的統合—
　イ、應召者並に其の家族の救護
　ロ、應召者の待遇、手當、地位の保障
　ハ、應召者の出身社會府別による待遇の不平等と其の矯正策
　ニ、銃後社會事業團體の全國的統合

四　戰時勞働强化に關する問題
　—戰時產業下に於ける勞働强化と其の防止策—
　イ、勞働時間問題
　ロ、賃銀問題
　ハ、災害防止、安全施設
　ニ、其の他の勞働保護問題

社會教化團體懇談會

凡ての國民が國家の最高目標の爲に協力すべきであることは、戰時、平時を問はないのであるが、特に國家の運命が決せられる如き非常時局に於ては、各個人が個々ばら〳〵な低い理想に向つて勝手氣儘な仕事をしてゐたのでは困る。國家の最高理想のために强力に結合し、能く自己の本分を體得して國家を誤らしめぬ樣心がけることが、今日に於ける個人及團體の留意すべき點である。

他の社會教化團體の事業をも理解し、同時に協調會の事業に就ても認識を深めて貰ふ目的を以て、去る九月十六日正午丸の內會館に於て協調會と關係の深い社會教化團體の代表者に參集を仰ぎ、非常時局に於ける社會教化の方法に就て懇談し、精神總動員等に就ても忌憚なき意見の交換が行はれた。

出席者氏名（順序不同）

九月十六日正午丸の內會館に於て

橫溝光暉氏(情報委員會幹事長)、原泰一氏(中央社會事業協會理事)、松本學氏(日本文化聯盟代表)、後藤隆之助氏(壯年團中央協會常務理事)、香坂昌康氏(大日本青年團理事長)、月田藤三郎氏(產業組合中央會々頭)、大村淸一氏(社會局長官)、成田一郎氏(社會局勞働部長)、後宮陸軍省軍務局長代理、山崎巖氏(社會局社會部長)、豐田海軍省軍務局長代理、桑原憲氏(海軍省艦政本部課長)、長谷川基氏(陸軍省戰備課長)、田中文部省社會教育局長代理、池田勤勞者教育中央會理事長代理、小森日本放送協會長代理、協調會副會長水野錬太郎、常務理事町田辰次郎、長岡保太郎　蒲生俊文

官民勞資懇談會

協調會に於ては河原田前常務理事の在任中、全產聯、勞働組合の幹部、及社會局長官、勞働部長から成る懇談會を斡旋してゐたのであるが、河原田理事の內相就任と同時に事務輻輳の爲一時中止してゐた。然るに支那事變の進展はやはりかうした談笑裡に事を運ぶべき、寬大さが要求されるようになつた。時局の重大性に鑑みて、陸海軍省、資源局、企畫廳、情報委員會よりも參加を仰ぎ、第一回例會が九月二十一日正午丸の內會館に於て開かれた。

一番槍に乘り込んできた大村社會局長官は、少し遲れてきた松岡駒吉氏を摑へて、昨夜は協調會の會合で馬鹿に氣焰を擧げたそうぢあないかと浴びせると、松岡氏頭をかいて例の明朗な微笑みを見せながら、あんな絕好のチャンスと云ふものは滅多にないので、ついやつてしまひました。それから松岡さんが町田さんの方を向いて、もうこれからやりませんから御安心下さい、だそうです。松井さんや橫溝さんがもう一度明かせて下さいと迫るが、松岡さん笑つて答へず。

出席者氏名（順序不同）

大村淸一氏(社會局長官)、成田一郎氏(社會局勞働部長)、松井春生氏(資源局長官)、橫溝光暉氏(情報委員會幹事長)、中村敬之進氏(企畫廳次長代理)、山脇正隆氏(陸軍省整備局長)、膳桂之助氏(全國產業團體聯合會常務理事)、森田良雄氏(全國產業團體聯合會書記長)、松岡駒吉氏(全日本勞働總同盟會長)、高山久藏氏(日本勞働組合總聯合會長)、協調會町田辰次郎、長岡保太郎、蒲生俊文

協調會に於ては支那事變の進展に伴ひ、從來主力を注いでゐた產業平和運動を更に一段と强化し、勞働團體に對しても事業主に對しても戰時勞働政策の實現に協力を求むるよう積極的に乘り出すこととなつた。十月下旬から別項の如きプランの下に全國的產業平和運動を展開することとなつたのであるが、その手始めとして、次の如く東京に於て二つの懇談會が開催された。

○　○

勞働團體懇談會

九月二十日夜日比谷於松本樓

勞働組合はすべて階級鬪爭をスローガンとして、產業を破壞するものであると云ふ樣な見方が今日尙產業界の一部分に浸みこんでゐるようであるが、これは大正元年頃の勞働組合發達の初期に於ける實相であつて、今日は斯樣な產業破壞的勞働組同の存在はよしあるにしても、極めて少數に止まるのである。のみならず日本の勞働組合は縱令それが輸入されたものであつても、日本人の手に依つて育てられ、日本の國民性を基礎に發展したものであるから、このような非常時局に於て、國家を毒して一部階級の利益を擁護しようとする如き組合は殆んど存在しないのである。英國は大戰の勃發と共に、勞働組合に對して戰爭への協力を求めたのであるが、日本國民には左樣な訴へは必要ではないのである。勞働者自身が日本國家の使命に就て、充分理解してゐるからである。

町田常務理事がこのような意味の挨拶をすると、總同盟會長松岡駒吉氏が勞働團體を代表して答辭を述べ、勞働團體の自覺の急務を述べると同時に、勞働が國力充實の爲に如何に重大なる意義を持つかを事業主並びに識者諸彥に認識せしむる必要あるを述べ、協調會の會合に對する感謝と將來の努力を期待すると結んだ。

食後町田常務理事の紹介に依つて、陸軍省新聞班林群喜中佐より北支及び上海に於ける戰況報告を受け、續いて、整備局長山脇正隆閣下より軍需工業動員に對する國民の覺悟に就ての講演を承はり、更に戰備課長長谷川基大佐より、軍需工業動員の解說を受けた。講演後加藤勘十氏、松本勇平氏、松岡駒吉氏、高山久藏氏等から軍需動員その他應召者の待遇、勞働時間等に就て軍部及協調會との間に意見の交換があり、和氣藹々裡に九時散會した。

當夜は名古屋から山崎常吉氏も參加し、我國に於ける勞働團體幹部の猛者連を一堂に網羅し、社會局、資源局等からも關係課長臨席、文字通り非常時色が濃厚であつた。

事業主懇談會

九月二十一日夜於松本樓

同樣のプランに依つて翌二十一日には、軍需工業關係の事業主約八十名を招待し、町田常務理事より、非常時に於ける產業勞働政策に就ての挨拶あり、三井鑛山勞務部長深川正夫氏より一同を代表して挨拶があつた。深川氏は「今日の如き戰時態勢に於ては、政治が產業經濟を決定する時代であるから、協調會が政府及軍部と協力して我々產業人を敎育することは實に有難いことで、將來とも斯る方向に着目して、軍官民の提携協力に盡力せられんことを希望する、政治も國防も民間の實情を知ることに依つて正しい目標を摑みうるのであるから、斯かる會合を通して、意見の交換をすることは實に有意義である。又我々は國家の興隆と勞働者の安寧福祉の爲には、勞務管理者として充分職責を完ふしたいと心掛けてゐるので、政府及協調會に於て充分御指導を仰ぎたい」と述べた。

前夜同樣、食後林中佐の戰況報告があり、山脇閣下、長谷川大佐より軍需工業動員に就ての說明の後、懇談があつて九時過ぎ散會した。

地方懇談會豫定表

十月二十日	事業主	宇部市
二十一日	勞働團體	福岡市
二十二日	本會役員會	同
二十三日	事業主	同
二十四日	勞働團體	大阪市
二十五日	事業主	同
二十六日	役員會	同
二十八日	事業主	名古屋市
二十八日	役員會	同
二十九日	勞働團體	同